

## 令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	血小板産生メカニズムの基本原理解明と医療応用技術の展開
研究代表者	江藤 浩之 (京都大学・iPS 細胞研究所・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>血小板の産生過程には炎症性サイトカインによる巨核球細胞膜の不安定化や流体せん断力が重要であるが、その詳細な分子メカニズムは現在も不明である。</p> <p>本研究では、血小板産生に関連する様々な分子の機能を詳細に解析し、血小板産生メカニズムの解明を試みる。また、それらの成果に基づいて、効率的に人工血小板を製造するデバイスの開発を目指す。</p> <hr/> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>血小板産生の詳細な分子メカニズムや物理的刺激応答に関する機序の解明は、高い学術的意義を有する。特に、巨核球の脂質二重膜が乱流シグナルにより、どのように再構成され、どのように切断されるのか、外部からの物理的刺激をどのようにセンシングするのか、といった血小板造血の時空間的な詳細なメカニズムが解明されることが期待される。</p>